

## 谷津田の四季ののらしごと ~ 夏編

大友 英寿（千葉市稲毛区在住）

五月の春編に続きまして、今回は五月の代かきから稲刈りまでの、夏の主な作業をご紹介します。

### 代かき

田起こしのあと、でこぼこになった田んぼの表面を平らにする代かきをします。代かきは田植えをしやすくするだけでなく、稲刈りまでのあいだ、水をむらなく張ることが出来るようにするための大切な作業です。一畝(30坪)くらいの田んぼでも高い所と低い所が出来てしまうと、水を均一に張ることが出来なくて草が生えやすくなって後々苦労します。

機械を使わない田んぼでは田起こしの後に水を張り、数日経って土がやわらかくなったあと、鍬や足で水面の上に出ている高い山からくずしていきます。ある程度くずしたら3~4メートルくらいの角材の両端にロープをつけて引っ張り、たいらにします。一度でたいらになることはまずなく、たいていどうしても土が多い所が出てきます。その場合は鍬を使って多い土をすくって、土の少ないところに投げ、また角材を引っ張ります。

田起こしから代かきはひたすら体力勝負なので、この時期が一番体重が軽くなります。腕の筋肉も一番引き締まるような気がします(逆に冬は...)

### 田植え

苗箱や水苗代で育った稲の苗を田んぼに植えます。手植えの場合はなるべく大きな苗(20~30センチ)から、一本植えで植えるようにしています。原則として肥料には頼らず、前年の稲わらやもみがらを戻すだけになっていますので、元気のよい苗を優先的に植えています。手植えは時間がかかりますが、3条、また3条と植え終わるたびに緑の線が増え、嬉しくなります。



田植え後の小山町「大ほたる」田んぼ(2008.5/26)

### 草取り

田植えのあとはひたすら草取りです。除草剤を一切使っていないので、どんどん草が生えてきます。一番多いのはコナギです。芽が出たばかりの時はとても小さいのにだんだん大きくなって、放っておくと地面いっぱいにしきつめたようにたくさん育ちます。その生命力にはただただ圧倒されるばかりです。



分けつが始まり、草も生えてきた(2008.6/14 下大和田)

草がまだ小さい頃は3条分を40メートル草取りするのに数分で済みます。根も浅く、ほんの少しの力でつまみあげることが出来るからです。でも大きくなるにつれ次第に時間がかかるようになり、草が10センチ以上になると30分以上かかるようになってしまいます。根をしっかりとっているため、少しの力ではびくともしません。農作業はなんでも早め早めが肝心ですが、草取りの時にそれを痛感します。

でも草の上やまわりで生活する生き物達にもたくさん出会ったり、まだ小さい稲達に「元気に育ってね」と声をかけながらの草取りは楽しいです。日が経つにつれ日も高くなり、水温も上がり、素足に心地よいです。

夕時、草取りしていた手を休め、ふと顔をあげると、稲の葉先に水滴がついている事があります。たくさんの葉の先についた水滴は宇宙に浮かぶ星々のようで美しく、疲れを癒してくれます。

### 草刈り

田の中の草取りと並行して、畦や田んぼ周辺の草刈りも行います。休耕田に囲まれた田んぼでは、休耕田に生える草が侵入してくるので厄介です。他にもさまざまな草が畦に生え、トカゲなどの小動物もたくさん見られます。

草刈りは鎌の切れ味次第で効率が大きく違います。しっかり研いだ鎌なら力もほとんどいらず、どんどん刈れますが、なまった鎌では振る回数も増え、力もいれなければならず、すぐに疲れてしまうのです。

### 見回り

夏は大雨が降ることが多く、そのたびに見回りに行きます。畦が崩れることもあり、それを直したりします。

大雨の時は新しい発見をする事が多いです。普段は気づかなかった水の流れたかたや、生き物達の避難の仕方。逆に普段とまったく変わらず過ごしている生き物達もみかけます。



草も元気に育つ(2008.6/24 下大和田)

## 稲刈り

稲刈りも、ほとんどの田んぼでは鎌で行っています。逃げ惑うイナゴやクモ達がとても可哀想ですが、「ごめんね、また来年会いましょう」と声をかけながら刈っています。

竹で組んだおだに掛けて数週間干し、脱穀します。脱穀については秋編で御紹介します。

夏は命あふれる季節です。冬の間、さまざまな形で休んでいた命達が元気に活動する姿からは、自然のままの生き方、自然にあらがわない生き方を教えてもらえる気がします。



収穫を待つ大ぼたる田んぼのコシヒカリ(2008.8/30)

## 谷津田いきもの図鑑 No.21

### ハシリグモ

田んぼで稲刈りをしたり、自然観察をしたりしていると草陰から大きなクモが飛び出てくることがあります。「キャーッ、クモ！大きい！」と子どもたちが声を上げるこのクモはハシリグモです。その名のとおりに走るのが得意ですが、忍者のように水面も平気で走り去っていきます。足にたくさん生えている毛のおかげで水の上に浮くことができるしくみで、アメンボウと同じです。

頭からお尻の先までの長さは2センチほどですが、足まで入れるとその3倍以上になるこの大きなクモ、スジブトハシリグモとイオウイロハシリグモの2種類が下大和田や小山の田んぼで見られます。スジブトハシリグモは頭から腹に白い縁取りの濃い茶色の太いしま模様があります。硫黄の



田んぼの草かげにひそむスジブトハシリグモ。よく見るとお腹に小さな白い点がある(2008.5/25 小山)



孵化に備えて卵のうを糸で稲にくくりつけるスジブトハシリグモ(2007.9/8 小山)

のようなオレンジ色をしているので名付けられたイオウイロハシリグモですが、スジブトハシリグモとそっくりのしま模様のタイプもいるのが悩ましいところです。スジブトハシリグモはお腹をよく見ると茶色のしまに小さな白い点が並んでいること、お腹がぷっくりとしていることなどが識別のポイントです。ちょっと難しいのですがじっくり観察して見分けてみましょう。田んぼの水辺で見かけるのはどちらかというとスジブトハシリグモの方が多く、イオウイロハシリグモは周囲の草木の葉の上によくいるように思われます。

えものが近づくと自慢の足でさっと飛びかかって素早く足で押さえつけてかみつきます。田んぼでクモやバッタを捕まえているのをよく見かけますが、アマガエルを襲うこともあるそうです。田んぼの水際に集まった上陸が間近のヒキガエルの子ども群れの近くにハシリグモが集まっているのを見かけたことがあります。

産んだたくさんの卵は1センチほどの白くて丸い袋(卵のう)に包まれていて、母グモがあごの近くにある触肢(しょくし、昆虫の触角に似ている)ではさんでいつも持ち歩きます。孵化(ふか)が近づくと卵のうを草木に糸でくくりつけ、生まれた子グモはしばらく網(“まどい”と呼ばれる)の中で過ごします。産卵から生まれた子グモが個々に旅立つまで親はしっかりと見守っています。

(高山邦明)



卵の袋を触肢でかかえて水面上に浮かぶ(2008.6/29 小山)



葉の上でえものを探すイオウイロハシリグモ(2008.7/12 小山)



生まれた子グモを見守るイオウイロハシリグモ(2004.9/20 下大和田)



# 里山たんけんレポート

## 第 103 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2008 年 8 月 3 日(日) 晴れ

クヌギの樹液にはオオムラサキが来ていましたがカブトムシ、クワガタムシは一匹も見当たりませんでした。夏休みになって子ども達が朝捕りに来ているのでしょうか。タマムシは山の中や林縁をたびたび飛び回っていました。発生のピークを迎えているようです。田んぼの畦ではカントウヨメナが咲きはじめました。コバネイナゴの幼虫がいっぱい飛び出します。ヒメギス、ツチイナゴ、ツマグロイナゴモドキは成体になっていました。ナガコガネグモの幼体もイネや畦の草の間にたくさん巣を張っています。コガネグモはすっかり大きくなって立派な姿を見せていました。オス、メスが一緒にいる巣もありました。広場のはざがけ小屋には腹が 10 円玉の大きさもある真ん丸く膨らんだオニグモの巨大な個体にも出会いました。オニヤンマは林縁をパトロールしたり、休息しているのもいました。トンボ仲間もいっぱい。真夏の太陽が照りつける暑い日となりましたが街中と比べるとはるかに涼しい気持ちの良い空間で、生きものが躍動する谷津田でした。

(参加者 大人 3 名; 報告: 網代春男)

## 第 88 回 下大和田 YPP「かかしづくり」&夏休みこども自然教室

2008 年 8 月 9 日(土) くもり

今回は自然教室と併催でした。まずは林の中でアイスブレーキングのつながりさがし。セミ、カエル、ミミズなど、一人ひとつずつ谷津の生きものを出してみんなでつながりを考えて手をつないでいきます。ちょっと悩んだところもあったけど、何とかつながりを見つけて手がこんがらがった輪のできあがり。「これが解けるの?」一つずつ解きほぐしてきれいな輪になった時は歓声があがりました。

続く谷津田たんけんは生きものをよく見て答える問題を手に、2 グループに分かれて田んぼの観察をしました。朝から強い日が照りつけていましたがたんけんが始まるころには曇って涼しい風が吹くようになり、ゆっくりと生きものさがしや観察ができました。クモやトンボの目やドジョウのひげの数などスタッフも知らない難問ばかりで、同じ生きもので数えても、「6 本!」「えーっ、8 本だよ」「もっとある! 10 本」と様々な答えが返ってきます。ふりかえりでも答えがばらばらになる問題がいくつかありました。ホントはちゃんとした答えがあるのですが、それを教えないで子どもたちの中に「?」を残したままにしておくことにしました。

林の中でお弁当を食べてからお楽しみのウルトラクイズです。田んぼにまつわる問題を出して、正解者は一歩ずつ前進。早くゴールした子どもたちにはノギリクワガタやカブトムシがプレゼントされるとあってみんな真剣な顔つきで問題に耳を傾けていました。

午後のかかしづくり。子どもたちのチームに加え、YPP の大人グループ加わって 4 つのかかしを作りました。それぞれが思い思いの衣装、体つき、顔つきを工夫。女の子たちのチョー美人かかしに男の子チームのマッコヨかかしなど、楽しいかかしにスズメが逆に集まってきたらどうしよう? と心配の声も。グループごとにかかしと一緒に記念撮影をしてから、田んぼに立てました。コシヒカリの花がほぼ咲き終えて、農林一号が花盛りの田んぼに色とりどりのかかしがとても似合っていました。(参加者 自然教室 10 名、YPP 大人 19 名+子ども 4 名 報告: 高山邦明)



かかしと一緒に記念撮影

## 第 36 回 小山町 YPP「かかしづくり」

2008 年 8 月 30 日(土) 晴れ

9 時ごろから激しい雨になり無理かなと思ったのですが、始まる頃には雲間から青空がのぞきはじめ、夏らしい暑い天気のもと、かかしづくりができました。最初に田んぼの様子を見ました。学校田んぼや地元の方のお手伝いをしている田んぼではコシヒカリの穂が重く垂れはじめ収穫への期待が高まります。田んぼの上をシオカラトンボたちが過ぎゆく夏を惜しむようにせわしく飛んでいました。

かかしは 2 体つくりました。十字に組んだ竹に古着を着せて中に刈った雑草をしっかりと押し込んで肉付けします。雨風に耐えられるようにひもでしっかり固定。肝心の顔、一つのチームは環境漫画家のつやまさんに書いてもらいました。重いかかしをみんなで運んで最初に収穫するコシヒカリの田んぼに立てました。稲刈りをしたら古代米の YPP 田んぼに移す予定です。今年も頼もしいかかしができて収穫までひと安心ですね。



かかしと一緒に記念撮影

(参加者 大人 9 名、小学生 5 名; 報告: 高山邦明)

## <谷津田・季節のたより>

### 小山町

- 8月6日 地元の方の門柱にタマムシがとまっていた(齊藤)。  
8月8日 湧き水近くの水路で2~3匹のオニヤンマが産卵。田んぼの上をチョウトンボが10匹くらいひらひら舞う。ミズヒキが開花(齊藤・金谷)。  
8月16日 黒米が出穂。赤く色づいたマユタテアカネやマイコアカネが飛ぶ(高山)。  
8月23日 斜面林でセンニンソウが開花し香りを放つ。木の上でクズも花を開く。オオアイトトンボを見かける(高山)。



アゲハチョウの仲間に見えるが実はガの仲間の「アゲハトドキ」  
(小山にて2008.8/23, 高山)

### 下大和田

- 8月9日 下刈りをした山中に「マヤラン」と思われる蘭の花が咲いた。  
下大和田で初出。(網代)

## イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

### 第89回 下大和田 YPP「みんなでサクサク! コシヒカリの稲刈り」

いよいよ収穫の季節です。まずは5月に田植えをしたコシヒカリを刈ります。今年の実りはどうかな? ずしりと重い稲になっていることを祈っています。

日時: 2008年9月21日(日) 10:00~14:00 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行き)のちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 帽子、長靴、軍手、弁当、飲み物、敷物など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

### 第37回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

地元の方のお手伝いで植えたコシヒカリの稲刈りです。たくさんの生きものを育ててくれた田んぼに感謝しながらみんなでぎやかに刈りましょう。

日時: 2008年9月23日(火・祝) 10:00~12:30 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

持ち物: 帽子、長靴、軍手、飲み物、敷物など

参加費: 100円(資料代など)

主催: ちば環境情報センター

### 第105回 下大和田 10月の谷津田観察会とごみ拾い

秋の水田雑草が花盛りです。実りの秋、アケビやクリも実っているでしょう。秋たけなわの谷津田を散策します。お時間のある方は午後の田んぼの作業にご協力よろしくをお願いします。

日時: 2008年10月5日(日) 観察10~12時 午後は田んぼの作業など自由活動 \*小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(下大和田 YPP に同じ)

集合: 下大和田 YPP に同じ

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

**編集後記** 熱帯のスコールを想わせる激しい雨、「ゲリラ豪雨」が日本列島の各地で被害をもたらしています。

この夏の異常気象は農作物に影響を与えているようです。田んぼでコシヒカリの背が高くなりすぎて倒れているのを見かけますが、これは日照不足で背が高くなり過ぎたためと聞きました。確かに斜面林脇の半日陰となっている田んぼを見ると、日当たりで背丈が違って日陰になっている方がはつきりと背が高くなっています。こういう時には天候を見ながら肥料の与え方を調整するのだと地元の方から教えていただきました。

(高山邦明)